

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ローズ・ガーデン おおの
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	岐阜県揖斐郡大野町
記入者名 (管理者)	中島 美奈子
記入日	平成 20 年 12 月 28 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の生活リズムを中心に、安心してその方の自信につながることに一緒に関わり、近所の方とも今までの関係を続けられることを目的に理念にあげています。日々のケアの中で、困った時は、常に理念を振り返り、方針を家族や本人と決め、利用者主体のケアに結び付けられるようにと考えています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員全員が一番大切にしているものであり、日々の暮らしが入居者にとって安心できるものであるか、自信を持ち、生き生きと過ごせているだろうか、その人らしく家族や地域の方と関わっているだろうかと常に考え、ケアに生かせるように毎日のユニット会議でも話し合っています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては、毎月のホーム新聞で地域における交流やボランティア、ホームでの活動の様子をお伝えしています。運営推進会議でも、地区の区長さんと民生委員、家族の代表に参加して頂き、地域との関わりを大切にしていきたいという気持ちをお話し、ホームを知っていただくために外出、活動内容や、事故報告をしています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	普段の挨拶はもちろん、散歩中や日々の買い物に出かけ、近隣の方に会ったら、積極的に声をかけています。近所の喫茶店や、隣の医院で近所の方に会ったり、顔見知りの方に会ったりする機会が増え、つながりができてきています。野菜をいただいたり、小学生の授業で介護について調べたいことに質問に答えたり、施設の見学を受け入れ、日常的な付き合いを大切にしています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の公民館の文化祭やお祭りに出かけたり、作品を出展したり、近所や家族の方のボランティアに来ていただいたりして交流を深めています。外出時は、職員が自ら地域の方と話すことに努め、利用者との会話の橋渡しをしています。自治会には加入し、広報にも目を通してしています。小学生、保育園児のふれあいの機会も作っています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を発展させ、同町内のグループホームの管理者が集って、地域の方々にグループホームを知ってもらうためのポスターやパンフレットを作成しています。役場や、地域包括支援センター、居宅介護事業所、公民館に置かせていただく予定です。小学校の事業の一環として施設見学や介護に対する質問にも答えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで、日々のケアを振り返り、理念に基づいた視点を持っているか確認しています。外部評価を、他者の目から見た新鮮な意見だと考え、職員にとっても、視野を広げられる機会だと思っています。利用者のためにいつも考え、悩んでいることを認めてもらえる機会でもあり、自信が持て、また一歩を踏み出そうという勇気が出てきます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を行い、利用状況、活動内容、事故報告を行い、また、ホームの様子を実際に見ていただくことで私達職員が何を大切にしているかを知っていただき、ホームに対する理解をいただいています。メンバーには、市町村と区長、民生委員と家族の代表、他ホームの管理者で、それぞれの立場からの意見を頂き、サービスの向上に努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の代表には、運営推進会議や外部評価に出席してもらい、実際を見ていただいています。また、グループホームについて、少しでも地域住民に知っていただくために、大野町内のホームが集って作ったポスターやパンフレットを役場や包括支援センターに掲示してもらい、共にサービス向上に向けて取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に活用している方はいませんが、包括支援センターや社会福祉協議会に相談をして、権利擁護に対する手助けをしてもらっています。また、研修に参加し、権利擁護に対する理解を深めていくようにしています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュース等で報道されている事件については、朝礼で情報共有をし、職員に周知をしています。職場の中では、何でも話せる雰囲気や話し合う場を作りストレスを貯めないようにしています。個別での面談も行っています。困難事例については、法人全体で合同検討会を行い、解決に向けています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書と重要事項説明書を説明し、本人または家族によく理解していただいたうえで契約を結んでいます。また、いつでも施設見学を受け入れ、ホームの雰囲気を感じていただき、理念を説明して、大切にしていることを知ってもらい、質問にも答え、十分に理解して頂ける様にしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、いつでも誰でも意見、不満、苦情を言ってもらえる様にしています。また、入居者様、御家族様には、日頃から面会時にお話をする中で気持ちを汲み取る努力をし、なかなか言いづらいことも表所つして頂ける様に声をかけ、何でも話しやすい環境を作るようにしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、その方の毎日の暮らしぶりや、健康状態、これから考え得る危険についての報告をしています。また、日々の介護に対する希望や、要望についても伺うようにしています。面会がない場合でもホームの新聞や出納簿を毎月郵送にてお知らせしています。急な健康状態の変化については、その都度電話で報告し、必要な説明及び今後の方針について話し合っています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置、苦情受付窓口の掲示を行い、また、面会時や、ケアプランの説明時にこちらから積極的に声をかけ、意見を頂ける環境を作っています。職員全員が、同じ思いで、家族に毎日の様子やホームでの出来事をお話し、安心して頂ける様にしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で何でも話しやすい雰囲気作りに心がけ、積極的に意見を出してもらえるようにしています。また、毎日ユニット会議を行い、個人の意見を出す場を設けています。出た意見に対しては、管理者が会議に出席し、直接意見を聞き、話し合いながら答えを出し、ケアに反映させています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	昼間の活動や介護を充実させ、夜はしっかり休んでもらえるように勤務時間を調整しています。行事で人手が必要な場合は、前もって計画を立て、勤務を組んでいます。また、無理な勤務によるストレスの発生や、事故を防ぎ、入居者様の生活に影響を与えないように職員の人員、勤務の調整をしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員との生活が、入居者様に安心感を与え、家族との信頼関係が築けることを認識し、勤務の異動は一度に行なわず、少人数にしています。新しい職員は、新聞でお知らせし、顔を覚えて頂ける様にしています。離職については、定期的に個人面談を行い、悩みや、希望を知り、解決する努力をし、また、各職員の「いい所見つけ」をし、お互いを認め合うなど離職を減らす工夫をしています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や希望に合わせて法人内外の研修を受ける機会を作り、積極的に参加しています。また、研修を受ける資格がある職員に対しては、年間で計画を作り、計画的に受講できるようにしています。資格取得に対しても勤務の配慮をして応援しています。また、毎月、ホーム内でも知りたいことなど、実際の現場に沿ったテーマで勉強会を行い、向上心を持ち、参加しやすい時間となるようにしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の時に、同じ町内のグループホームの管理者にも参加してもらい、施設の様子を見ていただき、意見交換をする場を設けています。また、管理者だけが集り、地域住民にホームをもっと知ってもらい、認知症に対する理解をしていただけるように、ポスターとパンフレットを作成し、各事業所に設置する予定です。各事業所間での情報交換の場ともなっています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入居者の対応で行き詰ることもあり、ストレスを抱えてしまう時もありますが、職員の表情や言葉使いに注意し、必要であれば個別で話を聞いたり、時には入居者と離れる時間を作るなど早期に対応しています。休憩時間は入居者と離れ、リフレッシュできるようにしています。また、勤務の希望を出来るだけ叶え、家庭との両立がしやすいように配慮しています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年、個人で自己目標を立て、半年で中間評価を行い、自分の目標に対する振り返りを行っています。個人面談を行い、目標達成のためのアドバイスをしたり、頑張り認め、意欲の向上につなげています。また、理念に基づいたケアに対する振り返りも行い、自分の介護に対する姿勢を見直す機会を設け、指導につなげています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家庭を訪問したり、デイサービスやショートステイ利用時に訪問したり、ホームの見学をしていただいたりして、直接御話を伺う機会を設けています。そして、可能なかぎりほんにんと関わりの中で思いや希望を把握し、気持ちを受け入れて本人との信頼関係を作る努力をしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、入居の申し込みの時に家族に会い、ゆっくり話を聞き、家族の思い、希望を聞き、受け入れると共に、状況の把握をします。その上で、ホームの役割、できることを説明します。ホームに入ってから不安も細かくうかがい、不安を軽減できるようにしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や、身体状況の変化があるときは、特に、現状を把握した上で本人や家族の思いを知り、その人のために本当に必要なことを見極め、ホームの役割を説明すると共に、必要な場合は、他事業所の情報を紹介したり、仲介したりしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申し込みの前から、施設の見学を受け入れ、ホームの役割、特徴などを説明しています。申し込みがなくても、希望者にはいつでも見学してもらっています。そして、ホームの雰囲気を知ってもらい、一緒にお茶を飲んだり御話をしたりする機会を設け、家族と共に過ごして徐々に馴染んで安心して頂ける様にしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの生活全般を入居者と共に行いその中で、昔の事を伺いながらやり遂げられた喜びを共有し、また気分が落ち込んでいるときは、その気持ちを共感し支え合う関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事を伝え参加をお願いし一緒に楽しんだり、面会時には様々な話をする中で入居者をより深く知る手がかりをいただきまた、家族の気持ちを添えたケアの検討をしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に家での生活の様子や、エピソードなどを伺い、リラックスした時間を過ごしていただける雰囲気づくりをしています。また、個人に合わせ、また、その時々に合わせて、本人と家族のみの時間を過ごしていただく事も大切にしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人または家族からいただいた情報を元に、馴染みの場所へと出かけ、馴染みの方との再会に感動し、職員も共に喜びを感じています。また、家族だけでなく、友人、知人の方々の面会も、途切れる事のないよう呼びかけています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりの性格も把握した上で、職員も入居者の仲に入り、誰一人と孤独感を味わわないよう配慮し、声をかけています。また、話題もいくつか考えておき、一人ひとりも楽しく話せ、入居者同士の輪も保つ事ができるよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後でも、できるだけ他施設や病院に行って状況を確認したり、必要な場合は、いつでも聞いて頂ける様に情報提供をしています。入院中の方には、ソーシャルワーカーを通じて病状を聞いたり、面会をかねて病状の確認をし、退院後に備えて関わりを持ち、家族がいつでも相談できるような関係を維持し、不安を軽減できるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を振り返り、その方が、その人らしく過ごすことが出来ているのだろうか、それぞれの思いに添ってケアが出来ているのだろうかを考え、より良いケアを目指しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも情報シートの記入を依頼し、馴染みの暮らし方、馴染みの家具、懐かしいエピソードなども伺い、ホームでの生活が本人にとり、どこか懐かしくもあり、安心していられる空間であると感じていただけるような環境づくりに心がけています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの表情、言動から、今、何を望んでいるのかを、その場面ばかりでなく、一日を通じて考え生活リズムの見直しをしています。また、追加されたケアなどは職員全員が把握し、ケアの統一に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のミニユニット会議において、ケアの振り返りを行い、ケアカンファレンスとし、ひとつの事項に対し、意見を出し合い、その人らしい生活を支えるケアを考え、改善に努めています。また、主治医、看護師、ケアワーカー、本人、家族の意見を盛り込んだプランを立てる為にも、サービス担当者会議は重要だと考えています。	○	サービス担当者会議の充実
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じてケアの見直しを行い、急な変化が生じた場合は、生活面、医療面、など看護師を交えて考え、状態の把握に努めています。また、家族にも連絡し、現状説明をし、意見をいただき、本人の思いに添ったケア計画を新たに作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録は、ケアプランのニーズに沿ったものとし、本人からの言葉、様子をありのままに記録し、それを受けてどの様に感じたか、これからどのようにしていくのかを順序だててかけるようにしています。他の職員が読んでも分かりやすくなり、情報の共有がしやすくなり、早期にケアの見直し、ケアプランの評価、変更につながっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により、心身状況の変化に合わせて、主治医の往診、隣の小林医院への診察、看護師への連絡や指示を受けられる体制になっています。入院になった場合でも、医療ソーシャルワーカーと家族と連絡を取り、状態を把握し、早期に退院できるようにし、ダメージを少しでも減らせるようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安心してその人らしく生き生きと暮らしていただくためには、家族や地域とのかかわりは大切だと思っています。地域の保育園、小学校の訪問、家族ボランティアの受け入れ、公民館活動への参加、運営推進会議への民生委員や、地区区長の参加をしてもらうなど、地域との関わりを続けられるように支援しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	施設内だけでは解決できない問題や、困難な事例に対しては、他事業所との話し合いを行い、他のサービスを利用することもあります。専門家の意見も取り入れられるように、精神科の医師の往診や、訪問看護を受けてその方が必要なサービスを受けられるように支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に一度の、地域密着型サービス運営推進会議に、包括支援センターの職員もメンバーに入ってもらい、相談やアドバイスをいただける場を設けています。入居者の権利擁護のために、実際に相談をし、アドバイスをいただいたケースがあり、解決しています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居しても以前からのかかりつけ医に受診できるようにし、往診医との連携を取り合っています。受診の時は、家族の協力をいただいています。結果や今後の方針などは、ホームの看護師が仲介をして、主治医や家族との話し合いの場を設け、職員同士の連携を取り、ホームでの生活がより安心したものとなるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活の中で築き上げてきた信頼関係から、時には家族のように声をかけますが、人生の大先輩であり、その方の、誇りを傷つけることのないよう配慮しています。また、一人ひとりのプライバシーを守り、自尊心を傷つけないように心がけています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の話を傾聴し、様々な気持ちを表出できるよう、ゆっくりと伺い、決して否定することのないように心がけています。また、個々に合わせた働きかけをし、わかるように話し、自らが納得でき、希望を表せるよう、選択肢を提供することで、自己決定をができるように	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者一人ひとりの生活のペースを知り、理解し、共に生活をする事で、一人ひとりが自分らしく過ごせるという事を実感しています。また、その日、その時を、どうすごしたいか、何を望まれているのかをいつも心におき支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出する際は、一人ひとり、お化粧をしていただき、女性としての楽しみを味合っています。昔から自分なりにこだわってきた物が、現在も維持できるよう、本人が持っている、おしゃれ心に声をかけ、秘めている力を引き出せるよう支援しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けも、関わりの時間として大切に思い、一緒に行っています。また、食事の時間も、会話を楽しみながら頂いています。入居者と職員とで、作り上げた喜びと、美味しい物を、皆で頂く楽しみが加わり、生活の中でも最も重要で、欠かすことのできない、大きな楽しみの時間となっています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自室に少量ではあるがおやつを置き、好きなときに食べていただいています。また、家族から預かったおやつなどは、職員が管理し、時間を決めてその方に食べていただいています。お酒の好きだった方のためには、特別な日を設け、職員と共に楽しめるひとときを作っています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握することで、本人の意思を伺い、誘導することがスムーズになり、オムツの使用や、失禁を減らすことが出来ました。また、その方特有の、一瞬のサインを見逃さず誘導することは、気持ちよい排泄を促すことになる事がわかり、今後も継続していきたくと考えています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴を希望される方には、その日、その時の、本人の都合、きもちに合わせ、入浴を楽しんでいただいています。また、入浴を好まれる入居者も多いため、せかさず、ゆっくりと入っていただけるよう心がけています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の意思に任せつつも、生活リズムが崩れることのないよう配慮し、活動と休息のバランスを考え支援しています。また、活動の中にも、静と動を取り入れ、メリハリのある生活となるよう工夫しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが得意とする、調理、掃除、計算、手芸、書道など、職員も共に行うことで安心していただき、本人にとって、楽しみであり、役割として行っていただけるよう支援しています。また、その人の、秘めている力や、可能性を見出せるよう心がけ取り組んでいます。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理したいと望まれる方には、管理方法を考え、安全かつ、安心して保管していただけるような対応をしています。また、入居者にとって、必要なものを、入居者と共に、買い物に出かけ購入し、現金は出納簿をつけ把握し、毎月、家族へ報告をしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の想いや希望に添って、職員とモーニングやランチに出かけるなど、楽しさを感じていただけるよう支援しています。時には、ドライブであったり、ホームのまわりを散歩をすることもあり、入居者本位の対応に心がけています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	戸外で季節感を味合っていたり、さくらや紅葉、ゆりなど、バスを借りての外出も行っています。また、家族にも、毎月のホーム新聞で、行事計画を記載し、参加を呼びかけて、一緒に楽しんでいただけるような機会をもうけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には自らかけていただいたり、暑中見舞いや、年賀状などメッセージを添えた絵手紙を家族に送っています。ホームにいても、家族とのつながりを感じていただける環境、雰囲気の中で生活していただけるよう支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どなたが訪問されても、皆で気持ちよく迎え入れ、ゆっくり過ごしていただけるよう、湯茶の提供、時には職員も会話に加わります。入居者、訪問者にとって気やかな雰囲気の中で居心地よく過ごしていただけるよう努めています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全を求めすぎて、身体拘束にならぬよう考え、またその行為は職員サイドの怠慢ではないかと常に、入居者と介護者の立場から考え、ケアは、本人本意であり、介護者が出した答えが本人にとり心も体も拘束とならぬケアを目指しています。また動き出された入居者を呼び止めてしまうのも拘束の一つになるため見守りから支援しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない開放感こそが、入居者の安心のできる生活になっています。自由があるからこそ『家へ帰ります』と職員に伝え玄関に行かれる為、一緒に戸外へ行き多くの会話をして気分転換をします。閉鎖的な空間からは見出せない、ごく普通の感情のままに体を動かされる事を、温かく見守っています。その為にも職員は、五感を働かせ入居者と向き合うよう努めています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室には本人の了解を得て入室し、今、何を考え、何を思っているのかを観察しつつ、話を伺う事があります。リビングで一日の大半を過ごす事が多い為か、居室、トイレ、戸外など所在は確実に把握するよう努めています。入居者の行動範囲を規制することなく、自分らしい生活の中で、心と体の所在確認を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりの、その時、その物への思いや、状況・状態を把握した上で、職員側で保管や管理の仕方を検討しています。取り除くことは最終手段とし、その物が、入居者にとりどういう意味のある物かを考え、危険のないように、また、入居者が安心して使用できるように支援しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	様々な事故がなぜ、起こるのかを、ホーム内外の勉強会で学び、職員全員に浸透させています。また、起こり得る前段階で防止できるよう、入居者一人ひとりの状態を把握していくことを常に、職員間で話し合っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者個々の病状に合わせ、起こり得る変化を想定したり、身近な事故・けが等の対応など、ホーム内の勉強会において、緊急時の対応として学び、職員一人ひとりの心構えとなるよう取り組んでいます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署立会いのもと、入居者と共に避難訓練を行い、また、毎月、通報訓練や初期消火の訓練など、防災担当の職員を決め、消防署とも連携を図り、災害時の迅速かつ、安全な対応に心がけています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その時々々の状態を家族に説明し、入居者にとって最善の対応のあり方を話し合い、ケアに努めています。また、家族の思いや、考えを考慮し、入居者のその人らしさの活かせる対応を検討し、ケアへと結びつけ働きかけています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや、何気ない関わりを通して、一人ひとりを見守り、観察していく中で、いつもと違うと気付いた時には、職員間で情報を共有し、また、看護師に報告することで医療面での充実を図り、対応策を検討しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合わせた内服介助・確認を行い、日々の生活の中で、体調の変化や症状の変化について注意深く観察しています。また、内服薬の変更が合った場合などは、処方箋を見ることで、薬の目的・副作用など確認をしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを記入していくことで、排便パターンを把握でき、その上で、下剤の必要性のある場合は、個々に合わせた下剤の種類と時間に対応しています。また、水分補給や運動など、日々の生活の中で積極的に働きかけています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々に合わせた支援を行い、口腔内の観察や義歯の衛生管理に努めています。自己にて行える方にも、歯間ブラシを使用し観察をしたり、仕上げ磨きをすることで、異常時の早期発見に努めています。また、インジンのうがい薬を使用することも習慣となり、口腔内の殺菌と風邪予防に心がけています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間の献立をたて管理栄養士のチェックのもと、食事を作り個々に合わせた食事量の確保をし、食後にはチェックを行っています。また、食事時、10時、3時の水分補給以外にも、入浴後、活動後、本人の訴え時など個々に合わせた対応しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種を行うなど、毎日の手洗い・うがいの施行、また、発症後の対応などは、勉強会を行い、統一したケアに心がけ、予防に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事を作る入居者、職員共に手洗いをし、爪や手の消毒をし、エプロン着用しています。また、畑で収穫した野菜を使用したり、購入した食材は、賞味期限を確認し、新鮮と安全に心がけています。調理器具の消毒や台所タオルの交換など衛生管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の草花などを植えることにより、明るく、一般の家庭のような雰囲気、どなたでも、気軽にドアを開けることのできるホームを目指しています。ホームの名前から、バラの花は、一年を通じて手入れをし、絶える事のないよう努力しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保ちつつ、無造作に物を置かないよう安全に心がけ、常に柔らかい雰囲気が出せるよう季節の草花を飾ったり、BGMをかけ、心地よい空間づくりに努めています。大きな窓から、四季折々の庭の様子を見ては、じっくり、ゆっくりとした時間を作っています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのソファでくつろぐ事が大半であるが、時には他者と離れ、一人ひとりの好みの合わせた活動に集中したり、個別で関わる場としていきたいと考えています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごしていただける居室とするために、使い慣れ親しんだ、家具や、寝具の持込を家族に依頼し設置しています。また、その物について、話をすることで、入居者の気持ちを知り、共感する時間としています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調は温度設定にて管理を行い、風も入居者に直接あたらないよう、吹き出し口には布でカバーをしています。また、掃除時には、窓を開けるなど換気はこまめに行っています。暖房の時期には、乾燥を防ぐため、濡れタオルを干しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの動線の妨げにならぬよう、危険と思われる物の配置換えなどをし、スムーズな行動範囲拡大に心がけています。また、手すりなどには、物をかけないよう安全性にも配慮しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力や、ペースに合わせた、何気ないケアをすることで、混乱や、失敗を未然に防ぐよう心がけています。またそれが、本人の力となり、自信へとつなげられるよう常に、見守り、サポートしています。入居者にとって、マイナスとなる空間を作らないよう努力しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム周辺には生活の妨げになるような障害物を取り除き、いつでも戸外へ行ける体制を整えています。庭の池の鯉にえさを与えたり、大きな庭木を眺めながら、いつものティータイムとは違った雰囲気を楽しんでいただいています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日、特別なことがない限り、ミニユニット会議を行っています。このたった30分が、その日、出勤のスタッフが自分を振り返り、ケアを振り返り、入居者一人一人が安心してきているのだろうかと考え、話し合う場となっています。今年度の目標は、「笑顔」ということで、入居者と関わる中で、スタッフも笑顔になり、一人一人の入居者がその人らしく笑顔で過ごせる時間を作ってきました。来年は「入居者の一瞬のサインを見逃すな」ということで、入居者の言動、表情、仕草を見逃さず、そこからその方の気持ちを推測してケアにつなげ、楽しさの中に大きな安心を感じていただけるように家族と共に考え、話し合い、時には悩んでいきたいと思っています。また、運営推進会議により、地域の方との関わりが増え、家族とのかかわりも徐々に深まりつつあります。これからも、更に関わりを深め、入居者が地域と家族の中で暮らしていけるように支援していきたいと思っています。